

論文審査の結果の要旨

報告番号	<p>甲 保 第 19 号 乙 保</p>	氏 名	森脇 智秋
審査委員	<p>主 査 田村 綾子 副 査 雄西 智恵美 副 査 安井 敏之</p>		

題 目

Development of a Breastfeeding Support Scale for Couples

(母乳育児に必要なカップル間のサポート尺度の開発)

著 者

Chiaki Moriwaki, Mari Haku: The Journal of Medical Investigation, 2016, 2月発行, Vol.63 No.1,2
に掲載予定

要 旨

本研究は、世界的に推進されている母乳育児を継続するために、夫からのサポートとそれを受ける妻の両者から確認できる母乳育児に必要なカップル間のサポート尺度の開発である。研究者は、母乳育児に必要なサポートを、提供者(夫)と受領者(妻)が共に満足できるようにサポート授受の視点からとらえることが重要であるとの視点から、母乳育児に必要な夫のサポートを質的帰納的調査により4つの概念を抽出した。文献検討と、この4概念を基に、サポート尺度原案を作成し、尺度開発の手順に従って調査・分析を行った。妥当性は、構成概念妥当性・内容的妥当性・基準関連妥当性・モデル適合度の検定から評価し、信頼性はCronbach's α により確認した。その結果、夫用は2因子10項目、妻用は3因子14項目の尺度が作成され、夫用妻用の下位尺度すべてにおいてCronbach's α が.72~.89という信頼性が得られた。また、構成概念妥当性・内的整合性及び基準関連妥当性も確認できた。さらにモデル適合度の検定においてGFI, AGFI, CFIはともに基準値を上回っており、RMSEAも基準を満たしていた。本尺度は、母乳継続支援のために、夫用では【妻への労わり】と【育児や家事の協同】、妻用では【妻への労わり】、【育児や家事の協同】、【夫の母乳への想い】により、母乳育児に必要なサポートがカップルで確認できることを示していた。

母乳育児のみならず子育て中の家族は様々なサポートを求めている。しかし、サポートがどのように表現され知覚され機能を果たすのかは、受領者と提供者の関係性や認識によって大きく影響するため、必ずしも効果的なサポートが得られるとは限らない。この視点から開発された母乳育児に必要なカップル間のサポート尺度は、母乳育児という行為を通して夫婦間の関係性の調整にも貢献できるものと評価できる。

論文審査の結果、本研究の社会的意義は大きく、博士の学位授与に値するものであると判定した。